

---

# 呪いから生まれた者

ロク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

呪いから生まれた者

### 【Nコード】

N3899R

### 【作者名】

ロク

### 【あらすじ】

『魔法少女』

それは私の憧れの存在だった。

アレと出会っまでは……

魔法少女。私が小さい頃に憧れた存在だった。テレビや本などでも幾度となく見てきた。いつか私も、こんな風に魔法を使ってみないな。そう考えていた。

「僕と契約してよ」

あれと出会ってしまったまでは。

私の家は、母子家庭ならぬ父子家庭だ。それを不敏に感じたことは沢山ある。それどころか私の父はアルコール依存症であり、お酒が入るたびに、私を殴る蹴るなどの虐待を行う人間である。

「もう、やだよ……。死にたいよ」

何度その言葉を口にした事だろう。それでも何故、私がこの世にしぶとく生き続けているのかと言えば、ある人のおかげだった。

「どんなに辛くてもね、いつかきつと誰にでも幸せが来るんだよ？」

私の通う高校の先輩が私に掛けてくれた言葉だった。 たった一言。その一言で私は救われた。だから今でも、私はこうして生き続けられている。

そんなある日の事だった。私の父はいつもの様に仕事から戻って来た。

父の仕事の事はあまりよく知らない。それに、知りたいとも思わない。あんなアルコール漬けを雇っている所なんて、きつとろくな職場ではないのだから。

「おい！ 何見てんだよ？」

いつもの様に父から暴力を振るわれた私は、無意識の抵抗で父を睨んでいた。それが気に障ったらしく、私は首を絞められた。

「あ……がつ……」

苦しさ以上に、次第に強くなる父への憎悪。そして、生きたいという願い。そんな時だった。

- - 生きたいかい？

『キユウベえ』が現れたのは。

私は、私の首を絞める父の肩越しに、キユウベえの影を見た。奇妙ながらも、動物だと分かってしまうシルエット。

- - なら僕と契約するんだ。

消えかける意識の中に、キユウベえの可愛いらしい声が、直接喋り掛けてくる。

- - そうすれば、君の願いを一つ叶えてあげられる。

この極限状態の中、キユウベえが救いの神様の様に思えた。だからこそ私は、すがってしまった。

・・・この男を殺して欲しい！

それは、決して願ってはいけない事であった。父に対する憎悪が溢れ出して行く。消えかけていた意識が再び覚醒して行く。

「うぐっ」

今まで私の首を絞めていた父は、今度はいきなり自分の首を絞め出した。私はムセかえりながらも、しっかりと自ら死のうとする父を見続けた。

・・・どうだい？ 君の願いは叶えてあげたよ。

私はキュウベえの声よりも、目の前でのたうちまわる父を見下すのに集中してしまった。

「ふふ……気持ちワル……。」

思わず笑ってしまった。あんなに憎くてしょうがなかった相手が、私の目の前で苦しんで死んで行く。こんな愉快な事って他にないはずだよ。

・・・ずいぶんと満足そうだね。

じわじわと、黒く汚い感情が自分を壊れていく感覚が襲ってくる。でもそれは、不思議と不快な感じはしない。何も考えられなくなり、むしろ楽になって行く。

「……………」

奇妙な感覚に囚われている間に、父は絶命した。死に絶えるその瞬間を見れなかったのは残念だったけど、そんな事も……どうでも良かった。

私の意識は、暗く深いまどろみの中で漂っていた。自分が今、何をしているのか分からない。辛うじて見える景色は気持ちが悪く、ただただ嫌悪感だけが込み上げてくる世界が広がるだけ。そして、意味不明な言葉が宙に浮かんでいる。

・・・どうだい？ 憧れの魔法少女になれた気分は。

キュウベエの声が聞こえる。私は本当に魔法少女になれたんだ。けど、何だか違和感がある。今私は『人の姿』をしているんだろうか。

「ようやく見つけたわよ、魔女さん」

なんでだろう。『巴先輩』の声がする。

「ゴロ、ス……ゴ、ロス」

どうしてだろう。先輩の名前を呼んでいるのに、出て来る言葉は全然違う。それに、凄く気持ちの悪い声だ。

「さて、と。いきなりだけど……決めさせて頂戴ね！」

先輩は高く跳ね上がり、巨大な銃を出した。どうして先輩は私に銃なんかを向けるの……。

「ティロ……ファイナレ！」

胸の辺りが熱くなる。本当に私は、先輩に撃たれたんだ。ショックだけど、それ以上に何だか気分が良くなる。より深い暗闇に落ちて行く。そんな感覚だ。

・・・やられてしまったね。

キュウベエの声だけが聞こえてくる。そういえば、巴先輩は私の

事を『魔女』と呼んでいた。

…そうだよ、君はお父さんを呪ったんだ。だから魔女になった。

私はただ、願い事をしただけだよ。でも、よく考えてみれば、あれは『呪い』だったのかもしれない。けど、もうどうでも良い。私の意識は完全なる暗闇へと落ちて行った。

この世で最後に見たのが、私に『生きる希望』を与えてくれた人であり、私は皮肉にも、その人に『殺された』のだ。

「呪ってやる……」

それが、私の人生最後の願い事だった。

） F i n ）

(後書き)

人生初の短編……話をまとめるのが苦痛でした(笑)

『魔法少女まどか マギカ』を初めて見て、かなり強い衝撃を受けたので衝動で書きました。

まどかの二次創作。

この作品に反響があるかと無かろうと、また書きます(オイ)

そんな事を考えている僕でした(ではまた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3899r/>

---

呪いから生まれた者

2011年10月7日03時15分発行